会議録

会議の名称	令和７年度　第２回社会教育委員の会会議
開催日時	令和７年 11 月 10 日（月）15:00～15：45
開催場所	穂波支所　３階　生涯学習ひろば（FP）
出席委員	小田原　嘉朋、氷室　敏幸、後藤　直巳、井上　節子、竹川　克幸、江藤　ふじ子、吉村　好美、中野　靖彦、中山　道代
欠席委員	猿渡　和則
事務局職員	教育部長、生涯学習課長、文化課長、生涯学習課長補佐兼中央公民館長、文化財保護推進室長、生涯学習係長、中央公民館・図書館係長、生涯学習ひろば担当主査、穂波交流センター長、庄内交流センター長、頴田交流センター長、事務局担当
会議内容	１　開会　15:00 ２　教育委員会あいさつ（教育部長） ３　案件 　１　議案事項 （１）議案第１号　令和７年度社会教育関係団体の登録について配布資料に基づき事務局より説明 【質疑】 （委員） 　社会教育団体が２団体継続申請するということだが、現在何団体あるのか。 （生涯学習係長） 　全体では 12 団体である。 　２　報告事項 （１）報告第１号　令和７年度生涯学習課・文化課事業進捗状況について事務局より説明 【質疑】 （委員） 　この頃お茶をしているが、生け花にしても、お茶にしても、お花しても、なかなか若い人が入ってくれない。若い人を育てようという意識はあるが、形勢的な理由なのか余暇的な理由なのか分からないが、興味はあるけれども入ってこないということに、いろんな流派のとこ

会議内容	ろで悩みがある。 　私は、今年の１月から３月ぐらいにお箏のボランティアで学校の教室、小学校や中学校にお箏の先生と一緒に指導に行った。それは授業の一環であった。 　お箏は日本文化の一環だから、小学生や中学生からこういう風にしていくと、興味が随分違うなと思った。 　そのあとで中学生が１人、今自分が行っているお箏教室に入ってきた。これはやっぱり良いことだと思った。お箏だけではなくて、お花や、お茶等それからいろんな文化ごとに、いろいろなことを子どもたちに体験させることによって、興味が小さいときからあると、壁が低くなってくる。 　だから、そういうことをもっと進めたらどうかということが自分の中にある。それがどの部分になるのか、体験型になるのか、資料を探していた。 （生涯学習課長） 　仰るとおり、日頃からそういう伝統文化になじむということでも、今後の伝承・継承に効果的だと思う。 　具体的に事業として考えたときに、例えば、学校の授業の一環で、L ボラと言われているボランティアのそういうことを理解されてる、教えることができる方に、学校に授業の一環として行っていただいて、子どもたちに教えていただくということも良いのかなと思う。また講座やサークルなど、なかなか土日の開催は難しいかもしれないが、そういったところでもあると思う。 　最近、交流センターの祭りなどがあっているが、そういったところで体験コーナーのようなこともやっている。3 月にはコミセンまつりも計画しているが、そういった場所での体験を１度味わってみる、距離を縮めて、身近なものとして接するという機会をつくれるようなことを心がければいいかなと思う。 （委員） 　興味のある子は興味で行くが、私達が授業の一環で行った。それは興味のない子も行って体験しているということだ。 　だから、興味のない子が行って体験することによって、高い壁だったのが、低くなるのではないかということが私の思いだ。 　どこかでイベントがあると興味のある人だけが行く。興味のない子を日本文化に触れさせると、興味の壁が低くなるのではないかと思った。 （生涯学習課長）

会議内容	冒頭に言ったＬボラという、いいづか生涯学習ボランティアネットワークの方々が学校の授業の一環で、民間の方だが先生のような形で教えていただいてるということがある。学校の方と話をしながら、そういった授業みたいな形で、活動が繋がればいいかなと思っている。 （委員） そうしていただけるとありがたい。 （文化課長） 現在、能とお茶、裏千家になるが、これらの体験教室は行っている。仰ったように、それは主体が興味がある子が来るという状況である。 また現在、他の団体と協議をしてるところではあるが、仰ったような、そういう希望がある団体、普及のためになど、その辺は私ども文化課に団体と相談していただければ、学校現場や、他の学校以外のそういう団体へのアプローチなど、そういったものについては調整や、ご相談を受けるようなことはやっているため、言っていただければ、どういう方法がいいのか、その団体の活動の種類によっていろいろな形であるため、相談していただければ何か良い方法を一緒に作っていければいいなと思っている。 （委員） 外国の住む方も増えている。日本文化とも観光の面でも、文化観光体験型を地域で進めていることもあるため、そういう人材の育成という視点で、貴重なご意見だったと思う。 ありがとう。 （委員） 私から１点だけ、14 ページの図書館についてだが、調べる学習コンクールというのを毎年飯塚の図書館で実施している。審査員で、教育委員会や生涯学習課からも来ていただいたりしているが、年々、図書館が今ちょうど工事中だということもあるが、図書館を使ってということよりもネットの情報見て、調べている作品が増えてる。 また、学校の図書館も使ってということもあるが、要は、お隣の嘉麻市さんの募集数と飯塚市の募集数を比べたら、飯塚の図書館は市内４つあるが、募集数が圧倒的に嘉麻市さんが多い。その理由を聞いたら先ほどと一緒で、学校教育の中に作品を出すということを教育の中に入れているとのことだ。うちは高校に広げようということで募集をしていただいたが、今年度は最初だったので募集がなかった。 何が言いたいかというと、せっかく４つの館がある。来年になると飯塚の図書館もオープンすると思うため、大人の部も実はあるのだ

会議内容	が、それは結局広く高校生を入れたということは大人の調べる学習、生涯学習に繋がるコンテストでもあるため、もう少し図書館にもアドバイスはするが、教育、生涯教育や社会教育にぴったりの事業なので、大人の方へ。小学生は必ず出てくる。中学校も今年初めて、中学校単位で出てきてくださるところも出てきた。 　これは本当に調べる力というのは今大学や、高校でもそういう総合探究の時間があって、ただネットの情報とスマホの情報に頼りきりな面も多く見られて、勝手にコンピューターやＡＩが調べてくれる能力もあって、逆にその調べる能力が社会全体で落ちてるということが、我々がその大学教育をしてたりする人間からしたらすごい。 　これは社会教育にも通用することだが、自然体験や、実際に対面でやる能力がだいぶのコロナ禍以降落ちてる面も見られるので、ぜひ調べる学習コンクール、全国のコンクールであるため、力を入れていただければと思う。 　皆様も、大人の部で。 （委員） 　どういったものを描くのか。 （委員） 　テーマは何でもいい。今年あったのは、茜染をした小学生や、歴史資料館など。基本図書館の本から発想を得て、自分で調べたことをレポートする。 （委員） 　そういう宣伝をして。大人でも良いですよ、という。 （委員） 　もっとはい。 　今まではお子さん主体だったのであくまでも主体の宣伝とかＰＲしかしてないので、それは伝えて、大人向けの、高校生向けの。 　小学生だけで終わっているのが本当にもったいない。 （生涯学習課長） 　私も先ほど仰っていただいたように学習コンクールの審査させていただいて、レベル高くやっているなと思った。 　今年度、先ほど仰っていただいたように高校生の部を開設したが、そこまで手が及んでいないという状況で、まだ中学生のところまでしかこれが広がってないということで、来年度の分についてはまたこれから考えていくということになるので、意見を聞きながら、まず高校

会議内容	生については、今年残念だったけれどできなかったので来年するという風に館長の方も仰ってましたのでそれは実施していきたい。 　大人の部の方は、またこれから検討させていただきたいと思っている。いろいろ募集するやり方や、審査のやり方などが幅広くなっていくと思うので、ある程度きちっとやるために検討したい。お時間をいただければと思う。 （委員） 　ありがとう。 　社会教育団体の筑豊博物研究会さんもいろいろ審査とかで協力もされている。 　そういうことが広がるように、私も努力したいと思う。 　皆様もよろしく。 （委員） 　ＰＴＡの行事がコスモスコモンで何かあると聞いている。 （生涯学習係長） 　先ほど申し上げましたが、12 月 6 日土曜日、コスモスコモンの中ホールで、吹奏楽や、太鼓、ダンスに関するイベントを、家庭教育の交流ということを考えた親子で触れ合い合えるような事業を計画している。 （委員） 　ありがとう。 （委員） 　ＰＴＡの話が出た。 　今結構新聞や報道で、県内の地域でもＰＴＡの組織のあり方に関する議論や、ＰＴＡを任意にするなど、そういう話が福岡県内でも出てるようだ。 　飯塚市の場合は、ＰＴＡの組織がしっかりされていればそういういろんな議論が。 　現状としてはどういう風な感じか。 （生涯学習係長） 　活動は活発にされている。 　確かにＰＴＡを脱退するというような、他県の情勢とかもあるので、そのあたりは一応、気にはしているが、継続して推進していこうということで動いている。

	（委員） ありがとう。 全県的な、福岡県の大きな大会をコスモスコモンでやっている。他の地域の人も、「ちょっとこの間、コスモスコモンで研修を受けてきました。」と結構聞く。 なかなかそのＰＴＡの問題は、各自治体ともコミュニティとかと連動してる地域もあって非常に困ってる地域もあるので、飯塚を見習っていただきたい。全集中していただきたいと思っている。 そういうところで会議というか、地域。特にコミュニティスクールというところを導入しててってところほど、自治体とＰＴＡとまたそれは別だみたいな議論が起きてる。 （委員） うまくいっているのか。子ども食堂は。 （委員） はい。 （委員） 先ほどいろいろあったが、私が気になるのは嘉穂劇場。 現在は、進めているということだが、年々これ遅くなれば遅くなるほど、今建築費用は高くなっている。どんな風なのかと思って。 そして現在の建物、改築する前の。それを飯塚市の皆さんにある程度知らして見てもらって、どう変わるのかを。期待をさせてもらったらいいかなと思っている。 （文化課長） その分で先月、10 月 26 日に一般開放をして、ちょうど街道祭りの日に合わせて、建物、今度壊す予定の場所も含めて、見ていただけるような機会を設定したところだ。 工事については、今年度もう間もなく開始する。本体の部分を残して周りの付属棟のところをちょっと解体するような形になるが、来年の、今のところは 10 月ぐらいに見学再開ができるスケジュールになっている。 （委員） 出来上がったら、もう今の工事も見られないんでしょ。工事のある間は見られないでしょ。工事中とか。

	（文化課長） 　工事中の間はちょっと中には入らない。 （委員） 　できるだけ早めにお願いしたい。 ４　その他 　　事務局より令和7年度筑豊地区市町村社会教育委員研修会に関して、第3回社会教育委員の会会議について説明。 ７　閉式　15:45
会議資料	・会議次第 ・令和７年度社会教育団体の登録について ・社会教育関係団体の申請団体について ・令和７年度生涯学習課・文化課事業進捗状況について ・令和７年度筑豊地区市町村社会教育委員研修会開催要項 ・社会教育委員関係規定 ・令和７年度飯塚市社会教育委員・飯塚市職員名簿
公開・非公開の別	［1］　公開　　２　一部公開　　３　非公開　（傍聴者０人）
その他 （非公開理由等）	